



今年の教区の目標

求めよう、神のちむがなさを! 守ろう、沖縄における人権を! 探そう、真の平和への道を!

〒902-0067 那覇市安里3-7-2 カトリック那覇教区本部 TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474 発行人 W.F.バーント司教 1部40円 http://www.naha.catholic.jp/

(1) 2019年12月1日(毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第733号 (12月号)

「平和の君」 "PRINCE of PEACE" (イザヤ九・6)

兄弟

姉

妹の

皆さん、

スマス、

おめでとうございま

す。

カトリック那覇教区長

ウェイン・バーント司教

平和のために祈ります。 歩みを平和の道に導く」(ルカ 深い関係があるからです。イザ リスマスをお祝いする大勢の いる者たちを照らし、 あけぼのの光(イエス)が我らを ルカの福音書によると、 は「平和の君」と述べています。 ヤ書では救い主イエスの名前 **憐れみによって、** 々は主イエスの誕生の日に 皆さんご存じのように、 暗闇と死の陰に座して イエスと真の平和には 高い所から 我らの 神の なぜ

るように」(ルカニ・14)。 み心にかなう人々に平和があ 光があるように、 こう歌ったと記されています。 いと高きところでは、神に栄 た羊飼いたちに天使が現れ 宿をしながら羊の番をして さらにイエスが誕生した夜、 その時天の軍勢が現れて 救い主の誕生を告げまし 地の上では、

平

に「探そう、 査によると、 いう願いがあります。 今年の那覇教区目標の一 和』とは何ですか?」と尋 真の平和の道を!」 「あなたが思う ある 節

> こと」です。 暮らせること」、「人間として くなること」、「家族と平穏に 界中から紛争・戦争がなくなる 最低限の生活ができること」、 いること」、「貧困や飢饉がな ねると、 なく暮らせること」、 日常生活において何の心配も 核が廃絶されること」 最も多かったのは「世 「治安が守られて そして という



イエスの降誕 ドレ作

に、キリストは私たちの平

ことであり、 これらすべての回答は世界の 答えもありました。 和を実現するために大事な 確かにこれらの 間違いなく な

を 横たわっていると思われます。 らないという使命があります。 す 源には共通する重大な問題が 諸課題に取り組まなければ しかし、これらの諸課題の根 なわち「暗闇と死の陰に座し 失ってしまった人間の状態 満たし その問題とは、 癒す神とのかかわり すべてのもの

> ずか 平 として受け入れ、 自 うな状況にあろうとも隣人を 満たし、 ができず、 不満から芽生える、 回復 ての れるのです。 優位に立つことをやめること て ・和に満たされるのです。 一分のように愛し、 真 41 人間が らない限 (の平和を考えるとき「実 しその満たしや癒しにあ る 癒しがあればどの 罪 平和はいつも失わ 神とのかか 0 逆に、 状 り自分の不安や 態で ・ 争い、 揺るぎない 兄弟姉 この神 す。 わり 、収奪、 す

なら、 私たちの生き様の土台となる IJ 築くことができます。 0 平 ストの歩んだ御父への道 ます。 和であります」(エフエソニ・ 道に導く」救い主です。 14) という言葉を思い出し 人とのかかわりを回復した 「平和の君」、 かならずその上に自分 そして世界 キリストこそは神 「我らを平和の の)平和を 丰

法は 望があっても、 言われました。「わたしが道で に、その希望が満たされる方 っです」 いくら平和な世界を築く希 主イエス・キリストの存在こ ありません。 (ヨハネ十四・6 理 一であり、 キリストなし キリストは いのちな

始まり てを満 真の平和の源泉なのです。 全な一致の根 たす愛の溢れに浴 であり、 神に立ち返る道 神と人との完 であり、 すべ す Ź

かならず深い安らぎがあり 道を歩みましょう。 御子を抱き、どんな苦難があっ 中から始まる真の平和の実 平和を深く味わい、自分自身の 致によってもたらされる真の に示される神と人との深 の平和が実現するはずです。 てもキリストと共なる平和 に向けた歩みを始めましょう。 『神と人の完全な一致』である 聖母マリア、聖ヨゼフと共に クリスマスの聖夜、主の そこには、 41 降 。 の 現

なぜなら、「神にお出来になら ないことは何一つない」 とともに歌いましょう。 (の平和が到来するはずです。 もはや失われることのな の降誕を喜び祝い、 からです。 (ルカ 天 使

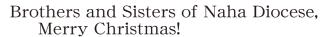
光といのちをもたらす たたえよ たたえよ のいやしのつばさ いのちを 平 和 義の太陽 0 君

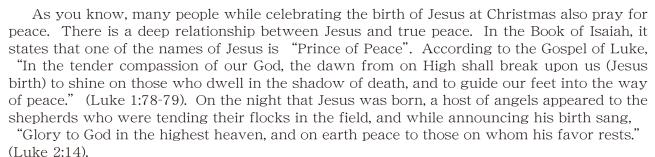
天には栄え(あめにはさかえ)



"PRINCE OF PEACE" (Isaiah 9:6)

By: Bp. Wayne Francis Berndt, OFM Cap.





One of the aims for Naha Diocese this year is to, "Seek the road to true peace!". According to a recent survey, when people were asked, "What is peace to you?" they gave the following replies. Many people responded, "The end of wars and conflicts in the world." Others said, "Having our security protected," "The end of poverty and famine," "Being able to live calmly with the family," "As a human being to have the basic necessities of life," "Being able to live daily life without any worries," and "The abolition of nuclear weapons." Without any doubt all these answers are important for establishing peace on earth. And it is certain that all of us have the mission of dealing with these issues in our lives as Christians.

However, when I think about peace, I recall the words of St. Paul to the Ephesians. "In fact, Christ is our peace." (Ephesians 2:14). Jesus is the "Prince of Peace"; our Savior who will "guide our feet into the way of peace". If we base our way of living on the way that Jesus showed us, then it will become possible not only for us to have peace personally, but to also help to establish peace in the world. Without Jesus, even if we have hopes for peace in the world, there is no way that we will be able to fulfill these hopes. Jesus said, "I am the way, and the truth and the life." (John 14:6). Let us walk with Jesus on the road to peace.

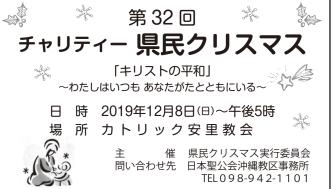
The visit of Pope Francis to Japan was indeed a great grace for us. Let us think deeply about the theme of the Pope's visit to Japan, "Protect all life". This theme is very close to the Okinawan saying that, "Life is Precious". Let us try to live daily in such a way that we treat each other and all of creation as a gift from God. I hope that those who attended the Papal services will share their joy and the Pope's message with everyone that they meet!

While remembering in our hearts the joy of the Pope's visit, let us celebrate Christmas this year, with a spirit of gratitude and hope. Through Christmas Songs like, "Hark! The Hearld Angels Sing", let us join the angels in celebrating the birth of our Savior, the Prince of Peace.

Hark! The Herald Angels Sing Risen with healing in his wings

> Light and life to all he brings, Hail, the Sun of Righteousness! Hail, the heaven-born Prince of Peace!





えて待っています。

のをワクワクしながら指折り数

イヴとクリスマスが来る 子どもだけでなく大人た

るクリスマスの日に、

私は神学

そんないつもと変わらない或

の仲間と共に孤児院へ行きま

るクリスマスの思い出はありま

皆さんにとって心に残ってい

に勤めている職員 した。それは、

主任司祭

マイケル・ヴィン神父 石垣教会

いる全員に配りまし のように参加して れをサンタクロース ゼントを準備し、 プログラムには載せ 孤児院の皆さんが、 た。また、この日は、 クリスマスプレ

ずに秘密のサプライ

づき、何を言えばよいか迷いま

まれ、その後のプログラムもス 気あいあいと楽しい雰囲気に包 くれたのです。そのおかげで和 という歌を歌って暖かく迎えて もたちが私たちを囲んで「歓迎 た。孤児院につくやいなや子ど ムーズに進んでいきました。 ズ企画を用意してくれていまし

らこちらでツリーの飾りつけや

リスマスムードに包まれ、あち

毎年十二月になると街中がク

心に刻まれています。

のことですが、それはまるで昨

のことのように今でも鮮明に

スの思い出があります。

数年前

私にも忘れられないクリスマ

イルミネーションなど華やかに

たいろいろなインドアゲームに たり、喜びの内に踊ったり、 と一緒にクリスマスの歌を歌っ 子どもたちの多くは、 、私たち

を分かち合うためで と主のご降誕の喜び 特に子どもたち タイ二十五・40 最も小さな者の一人にしたこと れらのわたしの兄弟、しかも とばが頭に浮かびました。「こ 輪に入れなかったようです。私 えました。ホールでみんなとの ころを何度も行き来していまし は、わたしにしたのである」(マ は、その子を見た時に次のみこ た。イライラしている風にも見 人だけポツンと外庭で、 そして私は、その子の方へ近

げました。 スソングを小さな声で歌ってあ スマスのギフトとしてクリスマ 顔で寄り添いながら、 したが、敢えて何も言わず、笑 すると彼は、落ち着いたのか 彼にクリ

合いました。

んと一緒にクリスマスを喜び祝

お互いにその幸せを分かち

とお願いして書いてもらった のTシャツにサインしてほしい けれども、三年前にあなたにこ 置いて申し訳なさそうに答えま 覚えてないよ」と私は頭に手を えていますか?」。「ごめんね。 兄弟姉妹も、親戚、誰もいない めました。「僕には父も、母も、 した。彼は、 イケルさん、このTシャツを覚 せるなりこう云いました。「マ 私にサイン入りのTシャツを見 あれから洗うこともしない ゆっくり話し始

参加し対戦したりとヒートアッ プしている中、或る男の子が レゼント」。 の喜びなんだ。神様がくれたプ これが僕にとってのクリスマス のお兄さんだと思っていたよ。 スが近づいて来ると。これを手 しめていたんだ。特にクリスマ に取って眺めては、あなたは僕 毎晩、このTシャツを抱き

がしめつけられる思いがしまし ないように涙を拭きました。 私は泣いていることを気づかれ そして、すぐにその子を抱 こう話す男の子のかたわらで ホールへ連れて行き、 皆さ

びもあるのです。 ものだけではなく、 ち合うことが大切なのです。 うに、私達も多くの人々、 贈ってくださいました。このよ トを神様からいただくという喜 ス様からいただいた喜びを分か めに救いの手を差し伸べ、イエ 子どもたちや困っている人のた いうプレゼントとして私たちに この男の子のように物質的 御父は、幼子イエスを救いと 霊的なギフ

少年クリスマス会

時:2019年12月21日(土)13:30集合~

所:カトリック首里教会

プログラム

ミサ パーティー 14:00 15:00

16:30 解散 希望者は引き続き親子コレジオ参加可

18:00 コレジオ カレータイム 19:00 20:00 自由時間

「パードレ・ピオの集い」開催

B 時: 2019年12月11日(水) 午前10時~午後2時

場 所:カトリック普天間教会

皆さん!主のご降誕おめでと

指導司祭:ペトロ・ヴォン・エッセン神父(カプチン会)

弁当持参(当日の湯茶と弁当20個位の準備はできます)

連絡係:屋宜留美子(石川教会)090-6857-7321

比嘉須賀子 (首里教会) 070-5813-2557

那覇教区平和委員会 €

台湾社会の民主化成熟のあらわれ 10月例会の報告

10月の平和委員会の例会は27日(日)、カトリック真栄原教会 で「台湾二・二八事件真実を求める沖縄の会」の代表世話役であ る青山恵昭氏を講師としてお迎えした。演題は「台湾二・二八父 の失踪を追う~認定賠償請求裁判で勝訴確定~」。演題の台湾二・ 二八事件とは日本ではあまり馴染みはないが、先の大戦から二年 後、1947年2月28日に、台湾の台北で発生し、その後、台湾 全土に広がった、中国国民党政権(外省人)が民衆(本省人・台湾人) を弾圧・虐殺した白色テロ事件のことである。そして青山氏の御 尊父はこの事件に巻き込まれて死亡したのである。(筆者注:白 色テロとは為政者が反政府運動に対して行う激しい弾圧のこと)。

青山氏は本題に入ると台湾の立地条件、歴史等を説明する。台 湾は沖縄県の与那国島から台湾東海岸蘇澳まで。面積は九州とほ ぼ同じ。人口2,350万人、原住民は16部族、55万人。そして 沖縄に一番近い外国である。沖縄との関係でいえば、牡丹社(ぼ たんしゃ) 事件がある。1871年(明治四年) 首里王朝に年貢を 納めて宮古島へ帰る途中で、台風にあった宮古の献納船が台湾南 東部に漂着。上陸後に迷い込んだ牡丹郷で54人の琉球人がパイ ワン族に殺害された。この悲劇を好機到来とばかりに、3年後の 1874年に明治政府は西郷降盛の弟、陸軍中将の西郷従道率いる 日本軍を台湾に出兵させる。牡丹社のパイワン族は近代的な武器 で攻め入った日本軍に老若男女の区別なく掃討され、生活の場も 奪われて悲劇的な目にあった。この二つの出来事をセットにして 牡丹社事件という。1895年、日清戦争で勝利した日本帝国は台 湾の割譲に成功。台湾における、日本の植民地統治は1895年(明 治28年) から1945年(昭和20年) までの50年。その間、台湾 は日本の皇民化教育などで、言語などを奪われ、台湾独自の文化 が蔑ろにされという異民族支配に苦しむことになる。

日本のポツダム宣言の受諾にともない、台湾は中華民国に返還 される。しかし大陸から来た国民党政府政権軍(国府軍)の圧政 と抑圧、横暴によって、台湾人の反発と不満はいつ爆発してもお かしくない状態にあった。その当時の台湾でよく言われたのが、 「犬が去って豚が来た」という言葉である。この犬というのは日 本人であることは言うまでもない。二・二八事件発生の前夜の台 北市街で官憲による闇タバコ売り婦人殴打事件発生した。その時 に一人が射殺される。1947年2月28日早朝、人々は立ち上が りデモ行進を挙行。大群衆となって行政長官公署へ抗議。しかし ここでも数人が射殺され、遂に放送局を占拠、全土に総決起を呼 び掛ける。青山氏は云う。それはまるでコザ騒動のようなものだっ たと。突発的で、リーダーらしいリーダーがいなかったからであ る。ただ積年の不満が爆発したのである。この"暴動的"大抗議 行動は台湾全土に広がる。蔯儀長官は大陸の蒋介石に「緊急援軍」 を打電した。国府軍は基隆に三月八に上陸。米軍提供の艦隊で来 た近代武装の国府軍は、基隆港を前にして艦砲射撃まがいの沿岸 砲撃で入港、上陸と同時に無差別銃撃を始め基降は虐殺の港と化 した。最大28,000人が殺害されたといわれる。そして戒厳令が しかれる。

鹿児島県大島郡与論島で生れた青山氏の父、恵先(えさき) さ んは23歳で台湾基隆へ渡り漁業などに従事する。当時の社寮島 は台湾最大の琉球人集落であった。テングサなどの海藻とりに季 節ごとにウミンチュ「海人」がやって来た。やがて定着し、料亭 が3、4軒もできるほどの賑わいを見せ、多い時は5~600人も 定住する集落になっていた。1942年、国頭村出身の渡慶次美江 さんと結婚し、翌年恵昭氏が生まれる。青山恵先さんは戦争中、 38歳の時、台湾から出征し、ベトナムで終戦を迎えたが、戦後 に家族が既に日本に引き上げたとは知らず台湾に戻り、事件に巻 き込まれたのだ。

事件収束後も長らく、国民党は知識分子や左翼分子を徹底的に 弾圧したため、この事件については、公に発言することはタブー となっていた。そして戒厳令は一九八七年まで続いたのである。 台湾の民主化を長く阻んだのはこの戒厳令と「白色テロ」と呼ば れた弾圧である。真相解明の動きが現れたのは本省人である李登 輝総統の政権下の1991年である。そのころ関連の公文書が初め て公開されたのである。1995年には民間への補償がはじまった。

しかしその時点で青山氏は賠償請求できなかった。沖縄の復帰 前、戸籍上、父親の出生地の与論が本籍地になっていた青山氏は、 米軍統治下の"琉球"では「非琉球人」であり、外人登録証が持た されていた。青山氏は家裁に父親の失踪の認定を申し込むことが できなかった。それで1971年に与論島に行き、青山家の地から 父の骨壺(小石)沖縄に移す。

1993年那覇家庭裁判所に失踪の申し立てをする。1994年 8月、「失踪宣言」が確定。2013年、台湾当局・二・二八事件紀 念基金会へ認定賠償請求を申請する。しかし2014年12月、申 請が却下される。その理由は2つ。①国家賠償法で外国人は適応 されない。②国際的法上の「相互保障の原則」からみて日本政府 は台湾人元慰安婦や台湾籍旧日本兵に対して戦後補償を拒否して いるので、対象にならない云うことであった。何度かの却下、不 服申し立て、提訴を繰り返したのち、2016年1月、第2回公判。 原告代理人弁護士は当局の主張に真正面から反論した。①特別立 法の二・二八事件賠償法は国際賠償法に従属されず、独立法とし て外国人にも適用される ②国際人権規約はすでに国内法に取り 組まれ「人権に国境はない」という国際的、人道的にも、相互保 証の原則に当てはまらない。それに対して台北高等行政法院(裁 判所) が損害賠償600万(約2,000万円) を支払うよう台湾政府 に命じた判決に関し、台湾政府は24日、上訴しないことを決めた。 その時点で、認定賠償請求裁判で青山恵昭氏の勝訴が確定した。

最後は拙稿を琉球新報の引用で締めくくる。「『台湾二・二八事 件真実を求める沖縄の会」顧問の又吉盛清沖縄大学客員教授は『台 湾の民主化が成熟したことが背景にある。台湾の民衆自身が戦後 処理を受け止めるという基盤があって、上訴しないという判断が 出た。お金の問題ではない。正義と人権という観点から台湾の評 価は高まるだろう。』」 (琉球新報 2016年2月25日付)

(平和委員 稲福捷夫)

カトリック文化センターから年末年始休業のお知らせ 2019年12月28日(土)~2020年1月5日(日)

カトリック文化センターはお休みとなります。2020年1月 **アウスパでファーはのかのとなります。2020年1月** 6日(月)から営業開始となります。皆様のご来店を心より お待ちしております。カレンダーや手帳、書籍や信心用具な どの販売や注文も承っております。是非、ご利用下さい。

● キリスト教関係の書籍、宗教用品等のご用命は、「カトリック 文化センター」を通してご注文下さるようお待ちしております。 〒900-0005 那覇市天久 1-8-7 電話・Fax 098-868-4649

2019年11月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2019年11月5日(火) 15: 00~17: 30 開催場所: 石垣教会

1. 報告及び連絡事項

- ・2年ぶりの石垣での会議の開催を受け、ウェイン司教による始めの祈りと導入。会議後に行われるミサは午後6時~7時、司教主式となるので全員参加をお願いする。ミサ後は午後9時までの予定で、石垣教会信徒たちとの交流会が行われる。翌日は朝8時からミサが行われるが、司祭たちの参加は自由。主式は主任司祭のマイケル神父が行う。午前9時から石垣教会信徒、玉城功一さんによる、殉教者石垣永将の講話を聞いて、10時解散の日程を確認。
- ・前回(10月会議)の議事録に沿って新田が報告と確認。
- ・司会のクレーバー神父より、司教、司祭、の休暇、会議、研修会等の不在予定を報告。

ウェイン司教、11月20日、福岡神学院会議。

11月23日~26日、教皇訪日に合わせた出張旅程。

押川司教、11月23日~26日、教皇来日に合わせた出張旅程。

ダン神父、ロドニー神父、11月11日~22日、MSP黙想会、フィリピン。

サニー神父、10月25日~11月20日、休暇。

クレーバー神父、11月11日~23日、休暇。

デニス神父、11月10日~16日、フィリピン。

教皇訪日ミサ参列の為の不在予定者、ダン神父(24~26日)、マイケル神父(25~27日)、ロドニー神父(25~26日)、

ブイ神父(25~26日)、ナビーン神父(23~25日)、

アジット神父(23~27日)、藤澤神父(24~26日)。

※主日不在の際のミサ司式者の確保と不在時の緊急連絡先の手配を確実にして出かけるよう司教から要請があった。

- ・10月26日に行われた GFC第8回、宮古大会について、担当司祭のロドニー神父から報告が行われた。ONDシスターの講話やウェイン司 教の挨拶があり、県内各所から95名のフィリピン人信徒や関係者が参加したことが報告された。次回は来年、首里教会を会場に開催さ れる予定。
- ・10月28~30日に行われた新潟でのカリタス・ジャパン全国担当者会議について、担当のマーシーさんから報告が行われた。この活動を次の世代にどう繋いでいくかや、東日本大震災の被災地支援は今も続いており、活動の継続とともに、新たに発生する災害にどう取組んでいくかなど、様々な課題について議論が交わされたことが報告された。
- ・パトリック神父より、普天間教会を会場に行われた「奇跡の主」のお祝いと集まりの様子が報告された。
- ・10月28日から11月1日にかけて安里教会を会場に行われた日韓総長会議について、ウェイン司教より報告が行われた。日本と韓国のそれぞれの国内に本部を置く修道女会の総長たちが、3年に1回、それぞれの国で交互に開催している。今回は沖縄での学習を通して、それぞれの国が抱える問題を確かめ合い、協調していく道を探求した。韓国側からは、若い修道女たちを沖縄に送って学習させたい意向があり、ウェイン司教からは韓国の修道会から沖縄での活動に修道女を派遣していただくことを要請した旨、報告があった。
- ・中神父様の七回忌追悼ミサについて、本来であれば11月29日の命日に近い主日に行いたいが、教皇訪日の日程もあり、17日(日) に前倒しして追悼ミサが捧げられることや、遺族の方々にも連絡してあることが、ウェイン司教より報告された。
- ・台風19号による災害の緊急特別献金を呼びかけ、教区から被災地に送金されているが、支援は継続して行う必要があるものなので、引き続き協力をお願いする旨、カリタス担当のマーシーさんから呼びかけがあった。
- ・首里城火災における支援金の呼びかけを、首里教会は独自で取組みたい考えであるので、それについては問題ないものの、教区全体として取組んだ方が良いかどうかについては継続審議としたい旨、ウェイン司教から報告があった。
- ・教皇訪日ミサで東京や長崎に出かける際、主日のミサに十分配慮して出かけること、不在の際の連絡先の用意や、司教への届け等、基本 的なことはしっかりやってから出かけるよう、ウェイン司教及び事務局から要請があった。

2. 審議事項

- ・マーシーさんより12月の司教訪問予定や、司教の日程の追加変更の聞き取りが行われた。追加事項として、12月15日に石川教会コンサートが、安里教会を会場に開催されること、12月21日(土)、首里教会で青少年クリスマス会が行われること、12月26日~30日、与那原の修道女会の総会が開催されることが報告された。
- ・各修道会共通の課題として高齢化による任務継続が困難になってきており、小教区や幼稚園での後任の人事や後継者育成が急務となっている。また、それと関連して修道院の移動等に関する今後の対応について審議されていることがウェイン司教より報告された。宮古、石垣についてはONDのシスターたちに、それぞれ2人ずつ赴任してもらう方向で検討していることも報告された。
- ・典礼上のことで提出された質問について、担当のブイ神父より回答があった。「祭壇上にローソクは置かないほうが良いのではないか」との質問に対し、「祭壇にローソクを置く場合、パテナとカリスが会衆からはっきり見えるようにします」との総則に基づいて行うよう確認が行われた。
- ・他所の教会からの問合せについて、例えば信徒移動票や洗礼証明書の発行願い等、速やかに対応されるよう司祭たちに事務局から要請があった。
- ・次回の司祭会議は12月3日(火) 10:00~12:00教区センター(安里) で行われる。

2019年11月15日 記録: 新田 選

承認: ウェイン・フランシス・バーント司教

遠の命を得るた 滅びないで、永 じる者が一人も

めである」(ヨ

何事も神の愛

ネ 三 ・ 16)。

どに世を愛され

予期しない愛を

神の知恵を信

時折感じます。

をほんとに体験することは少 と思います。 れています。 「の勉強会へ通うことなどに良く 亡くなり、 れ、教会へ通い、日々祈り、 多くの人の信仰心 復活したことを教え けれども、 イエス様 神の愛 な

さった」(ローマ五・8)。「神は、 たちが罪人であることを愛を通し て示しておられます。「キリスト ことを知っています。 わたしたちのために死んでくだ てわたしたちを愛しておられる わたしたちは、 神が十字架を通 神はわたし

その独り子をお与えになったほ 形で、 0

したちは日常生活の中で、 を通してやさしい慈しみをお示し たしたちの周りにあります。 になります。 神の現存と愛を感じていま 々の生活の 神の愛は真実で、 様々なが 色々な わた わ

神は、わたりの中で、 は洗礼や深い祈りによる信仰を通 してキリストをお迎えします。 して救われています。わたしたち ちは神からの賜物である信 わたしたちの心の中 慈しみによって、 神と語らい合います。 9信仰を通 祈

を完全に愛し、神がなさるすべて の祝福を信じるのです。 のこと、そして永遠の幸せのため じるだけで わたしたちは、聖霊を通し

り、神のご意志を示し、わたしたたしたちは、キリストのようにな 作り出す力のある神です。神は は、わたしたちの心に真実の愛を 穏やかさ、自制心などです。聖霊 辛抱強さ,親切、 いるからです」(ローマ五・5)。の愛がわたしたちの心に注がれ 神の愛を体験します。「わたした さいます。聖霊の力を通して、 通してわたしたちの中で働いて下 たしたちが願い、善を行う聖霊を ちに与えられた聖霊によって、 聖霊の果実は、愛、喜び、平和、 優しさ、忠実、 わ わ

た創造物、 りそして真の幸せ 愛を表すことができます。神の 頂いている恵みなどに表れます。 切にしている人たち、そして、日 わたしたちの周りにあります。 の中を清めることです。 さいます。 ちの周りに平和をもたらします。 めを守ることが、神の愛を感じ 神の愛を感じとれば、 喜びの贈物です。 信仰をさらに強める道を示して下 やり方で愛を示し、わたしたちの 自然の美しさ、限りのない 神は不完全な人を愛し、偉大な わたしたちが愛し、 神を信じることは、心 を得る手掛 神の愛の印 の愛を感じ取ます。神の戒 神の愛

て軸よう

神の愛を生きる 真栄原教会 テレ サ モンテロー

もってあなたを愛し、変わること なく慈しみを注いで」(エレミヤ 一十一・3)おられます。しかし おられ、わたしたちはそれぞれ です。「神は、とこしえの愛を わった形で愛を体験します。 神はわたしたち一人一人を知っ されない傷の痛み、人との、、わたしたちは、孤独の痛 愛は不可解なも 絶望など 離すこと 39 聴いたり、 件の愛を注いでくださいます。 福です。 たちが日々感じたり見たりする神 ています。これらは、全てわたし 見知らぬ人からの笑顔を日々感じ 生に会ったり、 と涼しい風を感じ、 を から頂いている日々の出来事と祝 いる愛する者を目の前にし、同級 中におられます。信仰を通して、神 0) 知っておら 朝目覚める時、 頼と確信の場なのです。 隣人と挨拶を交わし、 わたしたちに無条 電話で親友の声を 神はわたしたち 何時も周りに 太陽の温かさ 祈り 神

ながら、

はできない」(ローマ八・38-から、わたしたちを引き

私たちは故人とご遺族の意向 を最優先に考えます。何でもご 相談下さい。

那覇市首里鳥掘町4-57-3 TEL&FAX:098-885-8205 http://w1.nirai.ne.jp/yasurai E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

画

~ご遺族の心をもって奉仕する~

そうてんしゃ

社

- *創業30数余年・・・。
- *皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるための お手伝いをさせていただいております。
- *ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。 「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ (実務担当) 比嘉 高茂



てんごく **2**098-**853-1059** がついに出来上がりました。 です。まさに祈りと癒しの空間 れ、ルルドの誕生となった次第

読谷にルルド誕生 数区 E WS

20金

想いを一つしにして、とうとう 九月の聖ロレンゾ祭に合わせて、 この度、教会有志のメンバーが 屋に移ってから八年になります お伝えしたくペンをとりました。 私ども読谷教会が読谷村字都 読谷教会からの良き知らせを ルルドはありませんでした。 読谷教会

ちになるルルドの誕生です。 で美しく、なんとも不思議な気持 をうまく利用したとてもキュート 教会建物の前にコンクリートの壁 こに作ろうかと悩んだのですが、 夜間はライトアップされ、 私どもの教会は場所が小さくど そ

感していただきたくて、 がら祈ることのすばらしさを実 会をぜひとも訪れてみてくださ います。 い。百聞は一見に如かずでござ して常に水の流れの音を聞きな (雨水かよ子) 読谷教

「奇跡の主 の祝日

広く祝われている、「奇跡の主」 の司牧の一環として、毎週スペ 語を母国語としている信徒たち の祝日を盛大に祝った。 えて、スペイン語圏のペルーで ループでは、ウェイン司教を迎 イン語でミサを捧げているグ 去る十月二十七日、 スペイン 普天間教会

ウェイン司教様によって祝福さ

が治ったことから、地域に暮ら りを捧げたアントニオ(もしく 被ったが、このキリスト像を りの粗末な壁に、磔にされた がアドベ(日干しレンガ)造 されるようになった。 す人たちを中心に少しずつ信仰 はアンドレス)・デ・レオンの病 害がなかったという。その後、 となく、壁画にもまったく損 震でリマ周辺は多大な被害を 六七○年にこのキリストに祈 六五五年十一月十三日の大地 の黒いキリスト像を描いた。 いた壁だけは崩れ落ちるこ 一六五一年、一人の黒人奴隷

るとして、異端とみなされた。 壁画を消すよう命令した。黒人 消し去ることはできなかった。 よって度々妨害され、結局絵を トリックの伝統とかけ離れてい たちが執り行っていた儀式がカ しかしその作業は不思議な力に ところが、 当時の副王はその

きっかけに「奇跡の主」を模写 再びリマとカリャオを襲う。数 なったのである。 ン(聖行列)」が行われるように に立ち続けていた。このことを だけは何事もなかったかのよう 惨事の中で、またしてもその壁 千人の命が一瞬にして奪われた ニチュード8クラスの大地震が した神輿が作られ、「プロセシオ 一六八七年十月二十日、マグ

われた。 普天間でも盛大に聖行列が行な ウェイン司教をお迎えして、 (パトリック神父)

南部教会納骨堂巡礼

してきました。 普天聞の各教会の納骨堂巡礼を 名で南部の小禄、与那原、 ピーター神父をはじめ信徒三十 は十一月十日主日のミサを終え、 十一月は死者の月。 当教会で コザ教会 安里、

ためにご奉職されたレイ司教様、 与那原教会では、 那覇教区の

> 方々と一緒に合同でお祈りを チャールズ神父様、 ン神父様の墓前で、

しい昼食をいただきました。

骨堂巡礼を終え、各教会の納骨 られた司教様方や神父様方のこ ためにご尽力くださり、亡くな びつきを深く感じることが出来 に眠る方々と、教会共同体の結 とと、イエス様のもとで安らか 堂の手入れが行き届いているこ 司教様の講話に耳を傾けました。 とを思い起しながら、ウェイン しをなされました。 やコザ教会の歴史を中心にお話 今回の死者の月、 (與那嶺浩民

司教様公式訪問 真栄原教会

訪問日となりますが、今年はフラ すと、真栄原教会の記念日である の公式訪問がありました。本来で ンシスコ教皇様の訪日と重なった 王たるキリストの祝日」が公式 十一月十七日にウェイン司教様

首里教会の バレンタイ ため、

週間早まりました。

当日は与那原教会で行われて

講話があり、那覇教区の成り立ち いたバザーで楽しみながら美味 た後、聖堂にてウェイン司教様の 安里教会では納骨堂を慰霊し 南部教会納 那覇教区の

> ある。今日の福音「忍耐によっ 耐えて、確かな信仰を分かち合っ 中で、戦時中の奄美大島における 同司式で午前十時よりごミサが捧 は司教様の祝福を受けました。 でもあり、ごミサの中で、子供達 いました。月の第三週は子供ミサ を思い起こさせる、とお話くださ て、命をかち取りなさい。 た人々の子孫であり、 話くださり、私達は迫害や差別に 縄であった偏見や差別の様子をお キリスト者に対する迫害や戦後沖 げられました。 司教様は、説教の 一十一・19)」 はそのようなこと 当日は、ヨアキム神父様との共 兄弟姉妹で (ルカ

ことができました。ウェイン司 あいあいとしたひと時を過ごす 司教様への質問タイム等、 理持ち寄りによる祝賀会が行わ 教様ありがとうございました。 れました。子供達のダンス空手、 ミサ後、 信徒ホールで一品料 和気

(千村次生通信員)

計 報

◆与那原教会 ○一九年十一月七日帰天 ○ 10 一九年十一月七日帰天 ● 与那原教会

◆愛楽園教会 アグネス 仲村 10一九年十一月二0日帰天 字年一〇五歳 当 様

主日・クリスマス・新年のミサ時間案内 Mass Schedule

教 会	主日のミサ Sunday's Mass		クリスマス Christmas		新年 NewYear		
	日曜日 Sunday	土曜日 Saturday	24日(火)	25日(水)	★は12月31日	D : 1	TEL
名 Nago	10:00		18:00	19:30	10:00	ボスコ・ティン師	0980-52-2241
愛楽園 Airakuen	8:00			8:00	8:00	ボスコ・ティン師	0980-52-8379
読 谷 Yomitan	11:00		6:00 19:30	11:00	★ 19:30 10:00	ロルダン・ゼルナ師	098-956-3789
石 川 Ishikawa	9:00		19:30	9:00	10:00	アジット・ロドリゲス師	098-964-2084
具志川 Gushikawa	9:30		19:00	9:30	9:30	サニー・カンティラーノ師	098-974-3643
泡 瀬 Awase	9:30		19:30	19:30	9:30	ヨゼフ・ブイ師	098-937-3598
コ ザ Koza	8:30		19:00	8:00	10:00	ピーター・チェ師	098-937-7064
普天間 Futenma	9:00		(日・英・スペイン語) 19:00	(日本語・英語) 9:〇〇	(日·英·スペイン語) ★ 19:00 ★ 23:00	ナビーン・セクウェーラ師	098-892-2503
				25日~1月	3日 9:00		
真栄原 Maehara	10:00		19:30	10:00	10:00	ヨアキム・ホアイ師	098-897-7484
首 里 Shuri	9:00		19:00	19:00	★ 19:00	ロドニー・モンディド師	098-884-4787
安 里 Asato	9:00	19:00	19:30	10:00	★23:45 10:00	フランシス・ティエン師	098-863-2021
開 南 Kainan	9:30 19:00		19:00	15:00	0:00 9:30	古川政孝師	098-832-3037
小 禄 Oroku	10:00	English 19:00	19:00	10:00	三が日 10:00	デニス・フェルナンデス師	098-857-2128
与那原 Yonabaru	9:00	(第2日曜) English 18:00	19:00	19:00	三が日 9:00 ★ 19:00	クレーバー・ディ・ソーザ師	098-945-2355
大 里 Ozato	(第1·3日曜) 11:OO			11:00		クレーバー・ディ・ソーザ師	
宮古島平良 Miyakojima	9:00		19:00	9:00	0:00 10:00 2、3日9:00	藤澤幾義師	0980-72-2445
保 良 Bora		17:00		12:00		藤澤幾義師	
南静園 Nanseien	14:00			15:00		藤澤幾義師	
石垣 Ishigaki	9:00		19:00	19:00	10:00 19:00	マイケル・ヴィン師	0980-82-2322

Miss on Foregal			//	2019	
Misa en Español スペイン語ミサ	読	Yomitan	*** O D *** () -** - \ \ () () ()	Futenma(普天間) (日・英・スペイン語)	
	小	录 Oroku	Segundo Domingo (第2 日曜日) 19:00 23:00)	
Padre Patrick Sulivan (パトリック・サリバン師)	名言	隻 Nago	Tercero Domingo (第3日曜日) 19:00 E-mail psofmcap@aol.c	com	
090-1947-1171	普天間	引 Futenma	Cuarto Domingo (第4日曜日) 19:00 Facebook Iglesia Okinawa	à	